

(仮称) 南こども園創設に係る保護者説明会 要約議事録

- 1 開催日時 平成25年7月2日(火) 9:15~12:15
- 2 開催場所 南幼稚園リズム室
- 3 参加者 73名
- 4 回答者 (子ども子育て支援懇話会座長) 吉岡真知子東大阪大学副学長兼こども学部教授
(生駒南小学校) 森本校長
(南幼稚園) 平田園長
(みなみ保育園) 高橋園長
(事務局) 峯島教育総務部長、真銅教育総務課長、藤本教育総務課課長補佐、
浅井教育指導課課長補佐
池田こども健康部長、吉川こども課長、奥田こども課課長補佐、
水野こども課課長補佐
- 5 開会あいさつ(峯島部長)
- 6 吉岡教授による「これからのこども園について」

今回、生駒市が子どもたちの健やかな育ちを願い、新しいしくみを組み立てていくにあたって、役に立てばということで懇話会委員を引き受けた。

日本では、幼稚園の設置の趣旨と保育園が出来た歴史的な趣旨が違うため、保育所と幼稚園の二元化が続いてきた。

ただし、同じ3歳・4歳・5歳の子どもたちにとって、保育園で学ぶ子、幼稚園で学ぶ子の育ちは同じでなければいけない。幼稚園と保育園の中での、いわゆる教育的な内容というものが違ってはいけないので、平成元年に幼稚園教育要領が改定された。その後、保育所では、保育所保育指針が平成2年に改定された。

幼稚園と保育園から同じ小学校へ行くため、保育内容の整合性をもって教育しなければならないと言われたわけである。

また幼稚園でも、お母さん方がパートに出られるとか、いろいろな事情に応じて預かり保育が始まった現状がある。幼稚園の概ね4時間という保育時間がかなり弾力化し、長時間のお子さんを預かるようにもなりつつある。これは、家庭を支援するというか、今の生活の現状を見たときに、4時間だけでなく、希望があれば、預かり保育も利用しようということで、幼稚園と保育園の垣根が随分取れつつあるというような現実がある。そういった事も踏まえて、国ではこども園という構想を打ち立ててきている。

もう一つは、就学前の幼稚園・保育園の子どもたちの教育と、小学校の教育をどのように繋ぐかという、教育の接続ということが、大きな課題にあげられている。

小学校へ入った子どもが、幼稚園では元気よく遊んでいたのに、何か子どもの中でもギャップがあって、小学校教育に馴染めないのではないかというような「小1プロブレム」といわれる課題が出てきている。私も実際に、教育のやり方を見ると、小学校の教育と、幼稚園教育、保育園教育とは、随分違うと感じている。だから、「小学校と幼稚園をどのように繋ぐのか」ということ、小学校へ進んでいくとき、小学校の先生方も、幼稚園教育をしっかりと見ながらどのようにスタートしていくのかということは、教育界で真剣に考えないといけない課題と思う。

そこで、こども園が小学校への接続も考えながら、地域の子どもたちを健やかに育てるために、大きな力になると思っている。

もう一つ、建て替えとか、仮園舎で子どもたちの教育は保障されるのかについては、保護者の立場からすると、心配に思われることはあると思う。

それは、「子どもたちの育ちというものを、どう捉えるのか」という基本を見失わないようにしないといけないと思う。

子どもの成長をきちんと保障するという意味では、プロである幼稚園や保育園の先生、また、小学校の先生がともに考えないといけない。

子どもというのは、非常に不思議な存在だと思っている。子どもたちは、いろいろな経験をしながら育つので、この仮園舎で1年なり過ごした子どもたちは、全てがマイナスかということ、私は決してそうではないと思う。その事を生かした教育を組み立てる事が、必ずできるはずである。

私は「卒園式は、そこで出来るようにしてあげて下さい」と懇話会では話をしているが、例えば「あなたたちはここでは生活しなかったけれども、綺麗な園舎が出来た。後輩の子どもたちは、あなたたちが仮園舎に居たおかげで、この園舎を使ってこんなに元気に過ごせているよ！」という事を、教育としてきちんと話をすれば良いと思う。

こういった意味で、先生方とともに子どもたちがその仮園舎の中で過ごすという体験は、決して全てがマイナスではないと思っている。マイナスにしない為の教育を考えるというのが、プロの先生方のこれからの勝負どころだと思う。

子どもというのは本当に不思議なもので、様々な体験や経験をしていくことにより、その経験が自分の力や知恵になって生きる力というものを育てていくものであると思っている。

7 資料『南こども園創設に係るQ&A』に基づく説明

8 質疑応答

参加者：耐震補強するために、南幼稚園を取り壊して、こども園として建て替えするということだが、補強ということで構わないのではないか。建て替えと小学校の改修、また、使い終わった後で小学生が使えるように戻すという工事を考えたら、耐震補強で行う方が費用と園児の安全という意味では良いのではないか。

事務局：小中学校の耐震化の場合、夏休み期間など比較的工期も短くて済むが、幼稚園の場合は鉄骨造りのため耐震化の方法が小中学校と異なり、工期も夏休みだけで終わるといったものではない。

みなみ保育園と南幼稚園の場合、いずれも築年数 40 年前後と相当経っており、耐震化もしなければならないという状況の中で、就学前教育の充実を図っていくため、新たに、こども園という形でスタートするのが良いと考え、こども園創設の計画を提案させていただいた。

参加者：生駒市だけで、勝手に決めてしまうのか。何事も急いでいるようで、不満も出てくる。実際、私は小学校に子どもがいるが、小学校を間借りするという話は一度もあがってこない。もうちょっと、保護者の意見を聞くために余裕を持たないか。

事務局：こども園というのは、子どもたちにとって良いものだということで、提案させていただいた。確かに保護者の方への説明が不十分だったとの思いもあり、今後、懇話会での協議内容や資料など、その都度情報提供させていただきながら進めていきたい。

参加者：2月の説明会があって、今回7月と期間が空いたのはなぜか。
懇話会も3月にあって以降開催されておらず、次はいつあるのか。
園から、保護者の代表は1人だけ参加できると聞いたが、1人しか参加できないのか。

事務局：子ども子育て支援懇話会は昨年度終了した。日程調整の関係で、説明会は今日になった。今後は、南こども園の懇話会として保護者会の方々にも参加していただきたいと考えている。配布資料（Q&A）で説明した制服の検討などの説明会もさせていただく予定である。

参加者：制服なんて、こども園になってからやることで、今やることはない。制服は、こども園として、スタートしてからで良いではないか。

参加者：去年11月の自治会向けの説明会に出席した。パンフレットが配られて、自治会長からは、子どもたちには関係ないような話が行われていた。すぐに子どもが居なくなると思われない状況の中で、耐震工事が必要だからこども園にしましょう、丁度良いついてというような話をされても、南幼稚園やみなみ保育園の地域の中で、ぜひこども園にしてほしいという要望が、保護者や地域からあったのか。
お母さんが家に居る子と居ない子とでは、年齢が低い間はどうしても一緒にならないと思う。3歳の子にとって、隣の子はお母さんが迎えにきたのに、僕はこの後お昼寝をしないといけなとか、お母さんが遅くまで帰ってこないという状況は、子どもにとってどうか。
お弁当を食べている子の横で、嫌いな人参が入っている給食を食べないといけな等が生じるのはどうなのか。

事務局：担当としては、保育園でも幼児教育をしているのに、所管が文部科学省と厚生労働省の2つに分かれていて、幼稚園・保育園と別の施設に預けることを疑問に思っていた。

こども園の良さというものはなかなかわかりにくいですが、子どもはどんな状況であっても、同じところで色々と揉まれながら成長していくのが一番いいと思う。

制服については、今あるものとか上のお子さんのものを次の方に使っていただければいい。決して強制をするものではない。

吉岡教授：子どもたちの帰る時間がそれぞれ違うということや、給食で嫌いなものが出て辛いということについては、各家庭のありようで全部違うと思う。幼稚園に来ているお子さんも、一つにまとめる事はできなくて、家庭状況や家庭の構成だって違う。大事なことは、状況が違う中で、生活は、家族も含めてしているわけであり、「うちの家庭は、お母さんはお勤めに行って6時にしか帰ってこない」という事も、子どもたちは十分知った上で保育園に行っているわけで、それを我慢と捉えるのではなく、子どもたちなりに、そのことを感じとって生きているものである。

給食も同じで、保育園の子どもさんを見ていると、例えば人参が嫌いな子、ピーマンが嫌いな子、どうしても食べられない子を先生は無理強いしない。でも、仲間と一緒に食べる時に3・4歳位の子どもは、お友達が美味しそうに食べているのを見て、家では食べないが、保育園では食べる。「僕、食べられた！」とか「美味しかった」と言う。周りの集団の力を借りて、伸びようとか、順応しようという力を持っている。

そういう集団の中で、試して経験していく事が、生きていく力になっていくと思うので、嫌いなものが出る給食はかわいそうだとか、我慢しているという視点では捉えないことだ。

参加者：友達の未就園のママさん3人がこども園に入れたくなくて、違う保育園に入れている。こども園には入れたくないから、平群北幼稚園に入れる。もう一人はこれから平群北幼稚園とか私立とかに入れるのは難しいから、仕方なくこども園に入れようかなという気持ちであると聞いている。300人定員のこども園で、幼稚園に入りたいというママさんはどれくらいいるか。300人というキャパシティが正しいかどうか。大きいものを造ったのはいいけれど、ガラガラのこども園にならないのか。1.5倍の園庭になると言うが、いろいろな方が来られるし、不安だ。

事務局：預かり保育の充実、或いは短時間利用児から長時間利用児へのスライドができることなどから、こども園への希望が多くなり、幼稚園の時の入園希望数を上回ってくることも想定している。もし希望が少ないなら、逆に待機が多い長時間利用の子どもたちの入園が多くなると思う。

参加者：去年の秋の教育委員会の定例議事録では、教育委員が知らなかったとなっているが、教育委員会の立場としては、市長のトップダウンで、言われたとおりに従うということなのか。

事務局：今回、保育園の待機児童解消という課題が、幼稚園の耐震化と同時に生じたことから、教育委員会のみで協議できなかった経緯がある。審議手続きを指摘されているのはそのとおりであるが、その後、教育委員と市長との間で意見交換の場を持ち、大規模園になること、これからの就学前教育や保護者の就労に対するシフトなどについて、今後の幼稚園のクラス数の減少等もふまえ、理解をいただきたいという議事録も載せているのでご覧いただきたい。

参加者：『3歳、4歳、5歳児の学級担任は交代制ではありません。』とあるが、2時までの教育が終わった後、先生方が職員会議や次の日の準備なりをする時間はどうなるのか。

事務局：今回の南こども園は、長時間利用の子どもたちより、短時間利用の子どもたちの方が人数的に多い。2時で帰る子どもたちが多い中では、その後の時間帯で職員が空いてくるので、研修や準備のための時間というのは、保障できると思う。

吉岡教授：保育園の場合でも、担任は11時間連続でクラスを持つということとはできない。

おおむね午前中を中心とした保育、いわゆる教育的内容の部分で担任は関わるが、ある一定の時間からは、早く帰る子、遅くまでいる子に、いろいろな先生方が見ていくというシフトをとっていく。

それでも、子どもたちにとってマイナスかと言えば、私は色々な大人達、色々な先生と出会うという事が非常に大事だと思う。

預かり保育の時に、担任がいないからマイナスかということ、そうではなくて、色々な先生と出会うという事も一つの大きなメリットだ。

小学校でも、“持ちあがりもなくして、担任を変えていきましょう”というのは、そういうことである。

参加者：安全確保の面で、窓に転落防止の柵など、安全対策をしてほしい。

登降園の際の自転車の置き場所とか、こども園になった時の駐輪場の確保というのが、どうなっているのか。

事務局：送迎時の駐輪場、或いは待機場所についても、検討させていただく。

事務局：窓枠は、例えば近くに踏み台にできるようなものがあって、そこに乗って窓に手をかけるなどということがないよう、施設面の対応をしたい。

参加者：小学生と幼稚園児を、同じように考えるのか。

平田園長：窓の近くに物を置かないという事が第一だが、教師も安全面に配慮するよう言葉をかけるなど、子どもたちへの指導は引き続きしていく。安全面が一番大事に考えていきたい。

吉岡教授：幼稚園生活・保育園生活の中で、子どもの命を守るという事は教師の基本になっている。窓は危ないからと言って、みんな窓に（転落防止の）柵があるお部屋を作るかといったら、そうではないはずだ。

東大阪大学のこども研究センターで2階から回って降りる滑り台をつけた。その時、危険だから安全ネットを張るという意見もあったが、滑り台を楽しもうという話をし、保育士にも飛び上がって落ちないように、危険なことをしないように見て欲しいという話をした。設置してから10年経ったが、滑り台のふちを乗り越えて、2歳や3歳のお子さんが降りた事はない。子どもたちに「ここは危険だよ」ということを、その時に、きちんと教えていく事も大事だと思う。

事務局：市内でもなばた幼稚園など3園は、2階建て園舎になっている。2階ということで窓に必ず柵があるかということ、そういうことはない。窓の下に何か登れるようなものがあれば、当然、柵もつけていかななくてはいけないが、南小学校ではそういうご心配もないと思う。また、教室の窓側もベランダになっているので、対応していけると思っている。

平田園長：私は、2階建ての生駒幼稚園でクラスを持っていたことがある。子どもたちと話し合い、指導も随所でしてきた。これからもやっていきたい。小学校を見せてもらって、これはどうかと思う所があれば、小学校の先生方と相談しながら、安全を第一の目標に頑張っていきたい。

参加者：今の3歳児が卒園するまで待ってもらえないか。

事務局：平成28年度からこども園としてスタートするという事で進めている。

参加者：うちは、今が年少児で、仮設になると知っていたら南幼稚園に入園してなかったと思う。28年度からこども園にしますと言われても、納得いかない。親の思いがある。行政側は全部そろえて、ちゃんと準備が出来た段階で、話を進めるべきだと思う。

事務局：来年入ってこられる方からこども園化を進めてはどうかという意見もあるが、安全面に十分注意し、新しいこども園で子どもを教育するという、新たな形で進めるということをご理解いただきたい。

参加者：私個人の立場として、こども園は反対だ。譲歩したとして、こども園になる工事の際は、必ず小学校は改築されるのか。必ず小学校を幼稚園の子どもにむけた施設に変えてくれるのか。幼稚園児を受け入れる小学校の校長先生に、どういうふうに考えておられるのか伺いたい。「みなみ保育園に近いので、南小学校に間借りします」ということだが、実際、南小学校の児童数を考えると、小学生にもしわ寄せがくる。PTAも移動しなければならないと聞く。生駒南第二小学校ではどうなのか。二小の方が遠いというのなら生駒市がバスを出せば良い。

森本校長：当校は、そこまで余裕がある施設ではないが、限られた中で、同じ地域の子どもたちであり、うちの学校に来てくれる子どもたちなので、窮屈な思いはさせたくないと考えている。

一年生と幼稚園とで交流会もし、学び合うこともできる。

もちろん安全面は絶対重視だが、平成 27 年度の 1 年間、幼稚園の子どもたちが一緒にいることのメリットを生かすことはできると思う。

P T A は、狭い部屋で申し訳ない。しんどいだけで終わらせないように、職員も考え、良いものが少しでも得られるようにプラスにしたい。

小学校の立場で言うと、幼稚園の先生が、どのように子どもに接しているのかを見ることができるといい機会だ。そういう職員間の交流も深めていけたらと考えている。

参加者：運動会の前は、5・6 年は組み体操を練習する。その間、幼稚園も運動会の練習をしたいとき、どうするのか。

森本校長：体育館と運動場の両方を使えるように、学年配置をする。運動会が近づいたら、そうはいかない時もあるが、上手く調整しながら幼稚園にも使っていただきたい。

参加者：プールはどうするのか。

森本校長：プールについては、もし幼稚園の 4・5 歳児が使うなら、高学年が深いプールを使う間に低学年用の浅いプールを使うことは可能かなと思う。

参加者：「この園で卒園したい。入園させた園で・・・」という気持ちはどうしたら良いのか。

事務局：募集要項の中に含んでいなかったのは申し訳なかったが、建て替えという部分については、やはり安全性もあるので進めていきたい。

参加者：どうして、1 年前にこのような説明会をしてくれなかったか。

事務局：ちょうど 9 月が募集の時期であり、10 月にこども園の創設を決定したというタイミングとなった。その後、少ない回数かもしれないが、このような形で説明会をさせていただいている。

参加者：タイミングがずれたと分かっているなら、1 年ずらせばどうか。

事務局：そういうご意見があるが、27 年度の引越し、28 年度の開園に向けて進めたい。鉄骨造りの建物だが耐震性が低いので、できるだけ早く計画的に耐震化を図ることも大事なことだと思っている。

参加者：反対だという意見に対しての答えは。

事務局：今延期することは、考えていない。

改修の図面といったものは、具体的に設計をしないと出来ないのでは、はっきりした段階で、「こういう形でさせていただきます」という事をきちんと説明したい。

参加者：耐震の為に急がれているのなら、今の子どもたちの為に早急に措置し、こども園の事はそれからゆっくり考えた方が、より良いものができるのではないかと。

事務局：この建物は、他の施設のように応急処置はできない構造になっており、建て替えしかないと考えている。

参加者：反対意見とか不満のある保護者が多い中で、進めていくのか。

事務局：懇話会を作り、保護者の代表の方も入っていただき検討していく。懇話会の中の議論などを保護者に情報提供させていただく。

参加者：懇話会への参加について、幼稚園代表を増やしてほしい。

事務局：そういうご要望があるなら、構成は考えていく。また、懇話会は公開で行うので、傍聴にきていただけたらと思う。

参加者：そもそも、地域や幼稚園、保育園から「是非こども園にしたい」という具体的な声が上がってきたからこども園を創設するのか。市長が思いつきで、トップダウンで、言われたとおりののか、先程の問いに答えていない。

事務局：地域や保護者から「是非こども園にしてくれ」という要望はなかった。ただ、昨年にもこども園についての国の法律も可決された。みなみ保育園も南幼稚園も耐震化が必要であり、今がこども園となる時期だと考えている。保育所機能と幼稚園機能を併せ持った、素晴らしいこども園を創っていきたいという思いである。

参加者：今一緒にする必要性はない。大好きな南幼稚園に、3年間子どもを通わせたかった。

保育園は保育園で建て替えればいい。南幼稚園と違う場所にこども園を建てて移動はできないか。

事務局：それだけの規模の適当な土地を早急に見つけることは出来ない。

参加者：南小学校の東校舎を見に行くことはできるか。

事務局：学校と調整する。

参加者：生駒市立幼稚園耐震化状況一覧を見ると、南幼稚園はこども園になるから、後回しにされている気がする。

吉岡教授：スタートについての議論については、私は何とも言えないが、先ほどからの質問を二種類に分けてみると、保護者の意見を聞くという事については今後も懇話会を開くということだし、今置かれている状況を最大限良いものにしていく為にどうするかということは、懇話会の話題になっていくと思う。

次に教育内容については、少なくともプラスになる幾つかの方法は考えられると思う。運動会も、今回に限っては、例えば小学校と幼稚園と一緒にやるなど、大きい子どもが小さい子どもを見るのは教育的にも良いのではないか。

こども園は奈良県下でも、奈良市、大和郡山市、天理市、大和高田市、橿原市、御所市がそれぞれの地域性の中で実施しており、全てが同じことをしているのではない。宇陀市と三宅町は、30年以上の実績があると思う。他市について参考にさせていただくことはあるが、そのまま生駒に持ってくるのではなく、「新しいものを創る」という思いで考えていけばいいと思う。

9 閉会